

登録コード	L1441000		開講年度	2026			
担当教員	前田 豊			副担当			
授業科目	社会調査実習						
英文授業名	Social Research Practicum						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限 金曜・5時限
講義室	人文313演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			量的社会調査の方法論的知識やスキルを習熟し、多様な社会現象を適切に切り取る方法を修得して実践できるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力			テーマ設定から分析までの量的社会調査のプロセスを経験することで、経験的にリジットなアプローチで社会的事象に迫る方法を修得し、実践できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			量的社会調査のプロセスや考え方を実践を通して理解し、応用できるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			量的社会調査の方法論的知識やスキルを習熟し、多様な社会現象を適切に切り取る方法を修得して実践できるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	防災減災						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	2026年度は、自然災害と多面的な不平等をテーマとし、主に量的な社会調査を実施することを計画している。具体的には、以下の一連の項目に取り組む：（1）先行研究の精査，（2）調査計画の策定および調査対象の選定，（3）調査計画の策定，（4）質問項目の作成と調査票の作成，（5）エディティング・コーディング・データクリーニング，（6）データ集計と分析，（7）調査報告書の作成。						
授業計画	第1回 後期作業内容の確認 第2回 データの整備 : エディティング 第3回 データの整備 : コーディング 第4回 データの整備 : クリーニング 第5回 テーマ別分析方法の再検討 第6回 分析の実施 : 記述統計 第7回 分析の実施 : 多変量解析 第8回 テーマ別分析の討議 第9回 分析の再実施 第10回 調査報告書の作成 : 報告書の構成 第11回 調査報告書の作成 : 草稿の執筆 第12回 調査報告書の作成 : 草稿の推敲 第13回 調査報告概要版の作成 第14回 調査報告会 第15回 調査報告会 ・授業アンケート 定期試験なし						
成績評価の方法	授業への参加度（発表及び発言）70%と期末レポート（調査報告レポート）30%で成績を評価する。						
成績評価の基準	社会調査のクロージングにおいては、収集した調査データに基づき、設定したテーマ・問いに十分に対応した分析から結果を導出し、当該調査の概要・成果を適切にまとめた調査報告書を作成する必要がある。成績はこれらの点についての達成水準を総合的に判断し、複合的に十分な水準に達していると判断された場合は『卓越している』と評価し、いずれかの点で特に優れていると判断された場合は、その程度に応じて『かなり上にある』『やや上にある』と評価し、総合的に一定の水準を満たしていると判断された場合は『その水準にある』と評価する。						
事前事後学習の内容	授業で計画している一つ一つの作業が積み上げ式で展開されるため、以降の授業回で行う作業をスケジュール通りに遂行するために、十分な事前・事後学習／作業を行うこと。						
履修上の注意	本授業は社会調査実習 と連動しているので、受講は原則として社会学研究室の学生、ならびに他研究室の社会調査士資格取得希望者に限定する。						
質問、相談への対応	オフィスアワー、メール（ymaeda076[at]shinshu-u.ac.jp）にて受け付ける。オフィスアワーの日時は初回授業時に伝える。						
教科書	使用しない						
参考書	適宜紹介する						